

技術と社会部門 2013 年度部門賞 部門功績賞受賞者挨拶

部門功績賞を受賞して

石田正治(名古屋工業大学 非常勤講師)

2015年11月28日、長野工業高等専門学校にて開催された日本機械学会・技術と社会部門講演会の懇親会にて、本部門の功績賞受賞の栄誉を賜り、大変光栄に思っております。技術と社会部門の会員の皆様に感謝申し上げます。

例えば、機械工学史研究分科会（主査、三輪修三先生）のもとで1990年に実施された、産業記念物の調査データを整理して、産業記念物データベースとしたことが、私の日本機械学会での最初の仕事となりました。調査データは、玉川大学の故前田清志先生のもとに集約されていましたが、この当時、私は産業遺産データベースシステムの研究をしていたので、その事例研究として、前田先生の集められた膨大な調査データを産業記念物データベースとして構築することになりました。

その後、本学会創立100周年の記念事業委員会の下部組織のひとつとして「技術文化資料の保存活動小委員会」（委員長、前田清志先生）が組織されて、この小委員会のもとで、本学会の関わりのある企業約3900社、機械系学科約200校、研究所約210カ所、博物館約100カ所を調査対象にして、機械記念物調査が実施された。この集約されたデータも私が「機械記念物データベース」として整理しました。このデータベースがもとになって、学会創立110周年事業として、工作機械を対象にして「機械記念物」29件が認定された。

NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の委託研究の「度産業技術歴史・継承調査」において、「機械技術遺産データベース(530件)」（1999）が作成された。さらにNEDOの委託研究の成果として「日本の機械技術者データベース(406人)」（2002）、「機械学会歴代幹事長データベース」（2002）、「日本機械学会歴代会長データベース」が作成された。

「機械技術遺産データベース」を基盤として、学会創立110周年の時に、これまでの「機械記念物」も含めて、「機械遺産 Mechanical Engineering Heritage」として認定する制度がつくられ、申請された機械遺産候補の審査のための機械遺産委員会が、技術の社会部門内に設置されて今日に至っています。今や、「機械遺産」は、本学会の看板とも言える事業となっています。このような大変意義のある仕事に末席ながら、参画させていただいていることについて、感謝の念に堪えません。

この度の受賞を新たな契機として、本部門のさらなる発展と充実につながるように微力ではありますが努力したいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.33

(C)著作権:2016 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門